

まちづくりミーティング開催結果概要



開催テーマ 多文化共生・共創によるまちづくり

参加者

桐生市国際交流協会相談員・言語ボランティア 7名

桐生市長

傍聴者 1名

報道機関 2名

日時：令和8年7月1日（水）午後3時00分～午後4時05分

場所：桐生市役所 3階 第2特別会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 自己紹介

4 議 題

多文化共生・共創によるまちづくり

意見交換のポイント

- 日頃の活動を通して感じたことについて
- 今後取り組みたいことについて 等

5 閉 会



(市長)

本日は開催テーマを「多文化共生・共創によるまちづくり」とし、皆様のご意見を伺い、共に考え、新たな取組を創造してまいりたい。

意見交換のポイント

- 日頃の活動を通して感じたことについて
 - 今後取り組みたいことについて 等
- とさせていただいた。

まずは、「桐生市国際交流協会」の皆さんが取り組まれている事業について説明してほしい。

(国際交流協会より
「国際交流協会の事業
内容」等について説明)
※資料参照



桐生市国際交流協会

設立: 1989年(平成元年)1月30日



設立の趣旨

- 異なる文化や言語に触れる機会を提供し、異文化理解を深めます。
- 市内に居住する外国人が地域での生活に適應できるように支援します。
- 国際的なイベントや交流プログラムを企画・運営し地域住民や外国人居住者が共に参加できる場を提供し、相互理解を深めます。

協会の事業

(※桐生市国際交流協会規約より一部抜粋)

- 異各種交流親善事業の計画立案及び実施
- その他の目的達成に必要な事業



具体的な取組

- 姉妹都市アメリカ合衆国ジョージア州コロンバス市への高校生・大学生等派遣
- コロンバス州立大学学生来桐プログラムの受入れ
- 姉妹都市イタリア共和国ピエモンテ州ビエラ市との交流
- ウクライナ避難者支援 など



具体的な取組

- 在住外国人対象の日本語教室
- 日本人向け語学教室
- 多文化交流会などの異文化理解事業
- 外国人相談窓口
- 言語ボランティア



桐生の歴史・文化・自然を生かした観光振興



(意見)

コロナバス大学が来桐した際に通訳ボランティアをしたことがきっかけとなり、現在は国際交流協会働いている。桐生は、歴史と文化があり、非常に良い雰囲気のまちであり、街中から近くに山もあることから、外国人観光客に人気の奈良公園の鹿を間近で触れ合えるような体験ができると思う。

また、自然が豊かできれいな清流もあり、梅田では外国人がバーベキューのゴミや駐車の問題があったが、これだけいい場所があれば外国人も水遊びに来たいと思うため、例えば駅から無料のシャトルバスを出したり、ゴミを捨てないよう監視員の配置や様々な言語で警告文を掲示するなどしたいと思う。

(市長)

確かに桐生の歴史・文化・伝統・自然といった地域特性を生かしたまちづくりや観光は大事だと思っている。

桐生川のバーベキューによるゴミの件については、文化の違いも原因の一つだと思うため、「自分で出したゴミは自分で持ち帰る」ということをしっかりと周知することが最も重要であり、すばらしい清流で景色もよいところに多くの方々が来ていただくためにも、ゴミの持ち帰りなど、日本の文化・習慣を理解していただく取組も必要だと思う。

「着物×自然・街並み」を生かしたPR



(意見)

日本で働いている外国人や外国人観光客は、日本の文化についてもっと理解を深めてもらいたい。

桐生は、山や川に囲まれて景色もよいということや外国人は着物を着るきっかけがないので、着物姿と自然や街並みを写真撮影するなどをPRしたいと思う。

また、外国人観光客は一度は東京や京都などの大都市に宿泊するが、次からはもう少し文化を深めたいという考えがあり、東京にはなく桐生にあるものはたくさんあるため、ツアー会社などへ桐生の魅力を発信できたらいいと思う。去年スペインからの観光客を案内した時にホテルではなく民泊で畳の上で寝たいという希望があったが、民泊は大人数では対応できないということがあったため、今後民泊を増やせば、外国人観光客の増加にもつながると思う。

(市長)

正にこれから桐生が進めていこうとしている民泊のことを挙げていただいた。現在も宿坊や古民家を活用した民泊施設はいくつかあるが、PRがまだ十分ではないと思う。

また、文化を深く知るといふ部分では、やはり桐生は織物産業で培われた場所であり、素材から製造まで全てが完結できるという強みを生かし、着物の着付けなど、織物に関する体験は桐生に来れば感じるができるということをもPRしていきたい。

若者が国籍関係なく交流できる場



(意見)

桐生だけではなく、県の色々な事業にも関わる中で感じているのが、近くにいる外国人同士が接触できていないことが大きな課題であると感じている。特に若い世代や学生が同じ国籍の友達と知り合いたいののにできておらず、情報が届く場所が限定されてしまい、在住外国人のニーズに答えられていないと思う。

そのため、学生に対してしっかりと情報を届け、国籍関係なく交流できる機会を創造できたらいいと思う。

外国人が交流できる活動団体も限定されており、その団体が合わなかったら最後ということにならないように、団体数を増やしたり、近隣の外国籍住民が多い地で活動している他団体と連携していくことも重要であると思う。

(市長)

それぞれの地域内で全てを完結しようとするのではなく、地域の強みを生かし、足りないところは他の地域にお願いするなどの地域間交流が重要であると感じている。

また、現在、群馬大学理工学部の学生を中心に「学生×桐生つながるプロジェクト」として、学生にまちづくりに直接関わっていただき、グルメマップ作りやまちなか散策などで桐生の人たちと交流を深め、桐生の魅力を感じていただいており、群馬大学理工学部には留学生もたくさんいるので、ぜひ留学生の皆さんにも関わっていただき、様々な交流ができるようにしていきたいと思う。

生活習慣や文化の違いがある中でのコミュニケーション



(意見)

日本語を話せるといっても生まれ育った環境や生活のルールも違うため、どうしても変えられないことはあるが、外国人も勉強して日本の環境に少しずつ慣れていくしかない。生活習慣や文化の違いで仕方ないこともあるが、丁寧に説明してコミュニケーションを図っていければいいと思う。

(市長)

日本のことわざに「郷に入っては郷に従え」という言葉があるが、それを強制するのではなく、日本の一つのルールやマナー、文化として理解していただき、コミュニケーションを取っていくことが重要であると思う。



外国人同士の横のつながり



(意見)

言語ボランティアとして色々と関わってきており、“織都桐生”案内人の会に所属しているため、インバウンドガイド研修の講師なども担当させていただいた。また、群馬大学理工学部の留学生を対象とした料理交流会にも毎年参加しており、外国人を対象とした活動経験がある中で思うことは、外国人同士の横のつながりを増やしていくことが重要だと思う。

(市長)

“織都桐生”案内人の会の皆さんには、桐生を深掘りした観光案内をしていたいただき大変ありがたい。インバウンドガイド養成のほか、現在、子ども観光ガイドのスペシャリストの育成を目指し、案内人の会の方々にご協力いただいている。

横のつながりという点では、“ゆいねっと”を活用することで仲間を集めたいという団体や色々な活動に参加したい方々をマッチングすることができる仕組みがあるため、外国の方も例えば祭りで神輿を担ぎたいとか、お茶摘みをしたいなど色々な体験をしてみたいという方もいると思うので、“ゆいねっと”の多言語化やその情報を言語ボランティアの皆さんが発信していただくなど、マッチングの支援や交流が深まるような活動も必要になってくると思う。

桐生市の文化・魅力を味わえるイベント



(意見)

英会話講座を開催したが募集人数を上回る申込みがあり、桐生にも英語に興味がある方がたくさんいるということが分かり嬉しかったため、また開催したいと思う。

また、最近、JETプログラムに参加しているALTの先生たちで構成され、群馬県内の色々なところでイベントを開催する活動に携わるようになったが、今後、桐生市の文化や魅力を味わえるイベントを開催してみたいと思う。

(市長)

皆さんのお話を聞かせていただき、「文化を知る」や「人と人をつなぐ」ということがキーワードとして挙げられており、そのようなことが今後重要になってくるのではないかと感じた。



(市長)

二つ目の意見交換のポイントとして、**外国の方にもっと桐生へ来ていただくためにはどうしたらよいか、桐生の良さをどのように発信したらよいかなど、今後、皆さんが取り組んでみたいと思うアイデアやご意見について伺いたい。**



国際交流協会の活動を周知



(意見)

外国人の市民の中には、国際交流協会の存在や日本語教室を開催していることを知らない方も多くおり、イベントの開催をお知らせする広報きりゅうへの掲載についても、日本語が難しく内容を理解できない方も少なくないため、情報の発信方法を工夫したほうがいいと思う。

例えば、市役所に転入手続きに来た際に、国際交流協会や日本語教室開催の案内などを含めたチラシを窓口で配布できれば、日本語教室に繋がるきっかけにもなると思う。

また、日本の文化や桐生の魅力として、着物や浴衣をレンタルしてまち歩きするなど、桐生ならではのものを体験できるサービスを充実させ、その情報発信については、若者が利用しているSNSを活用することで、多くの方に知っていただけたと思う。

(市長)

やはり外国の方は、着物や浴衣を着ることについて大変興味を持たれているということで、桐生には着物を着てまち歩きをする良いロケーションがたくさんあるため、そのような情報を積極的に発信していきたいと思う。

都内で桐生の魅力をPR



(意見)

都内の駅や電車の中で、草津や伊香保の旅行の広告を見たことがあるが、桐生も例えば着物をレンタルして日本文化を味わえたり、清流での川遊びやお茶摘みができるといことを都内でPRしてみてもどうかと思う。

また、桐生八木節まつりもたくさん人が集まるイベントであるということを効果的に発信できれば外国人観光客も増えるのではないかと思います。

(市長)

都内でのPRという点では、桐生八木節まつり開催に国内外から観光客を誘致するため、浅草で八木節を披露している。

桐生八木節まつりの特徴は「動」の八木節や「静」の祇園を同時に感じられ、八木節については超参加型で、誰でも自由に櫓の周りを同じリズムで踊り続けるところにあり、分かりやすさや乗りの良さがあるため、浴衣の着付体験などをセットにして外国人の方々にPRしていければと思う。

(意見)

現在介護の仕事をしており、スペイン人の介護士向けに講義も行っており、介護の話だけではなく、桐生のためになることを何かしたいと考え、知り合いから着る機会がなくなった着物の帯を提供していただき、コースターにリメイクしたものをその講義で渡すことで、織物のまち桐生をPRしている。

また、スペインからの観光客を案内した際には、桐生の街中を見てもらい、何か一つでも桐生に興味を持っていただければと思い、桐生織物記念館を見学したり、ひもかわを食べたりして、実際にリピーターになっていただいた方もいたため、少しのことで積み重ねてより多くの方に桐生を訪れていただくようPRしていきたいと思う。

少しの積み重ねでインバウンド増加へ



(市長)

着物については、最近は着る機会が少なくなっていまい、タンスの中で眠っているケースもあるため、それを生かすためには着物の一部をタペストリーなどのインテリアや色々な物にリメイクすることにより、着物への興味を湧かすことができたり、織物のまち桐生をPRすることもできるため、今後取り組んでいきたい。

(意見)

観光客目線で何が求められるかを考えた際に、紙のマップや写真を見ながら周遊するというよりは、YouTubeなどの動画が効果的であると思う。動画であれば移動中に何があるのかイメージもつき、印刷の必要もなく、半永久的に使えるというメリットがあるため、言語ボランティアが協力して各言語で作成してみたい。また、言葉のレベルに配慮した「やさしい日本語」でも伝えることで、観光客だけではなく、在住外国人の80%の人たちにも情報が届くといわれているため、とても効果的だと思う。

他にも、韓国版のウィキペディアで桐生市を調べてみると、韓国でも人気の日本アニメの舞台(クレヨンしんちゃん: 桐生が岡遊園地)になっていると紹介されているため、国内外のファンを集められるのではないかと思います。

さらに、桐生の観光地として一番推したいのは水沼駅周辺エリアで、ローカルな鉄道で昔ながらの駅に向かい、温泉・サウナ・カフェ・そばなどが楽しめる素晴らしい環境がある。そのため、動画を作成してPRしたいと思うが、それには、ツクルンとコラボして若い世代や群馬大学理工学部の学生などと一緒に作っていきたい。

「やさしい日本語」と動画により分かりやすい観光案内



(市長)

大変素晴らしいアイデアをいただいたため、その実現に向け国際交流協会や関係各所としっかりと検討させていただきたい。

外国人でも気軽にスポーツができる環境を整備



(意見)

外国人の子どもが気軽にバスケットボールができる環境を整備してほしい。既に活動しているバスケットボールサークルなどは仲間同士でやっているため、知り合いがいないと入ることができなかったり、学校の体育館の一般開放についても、10人以上の団体でないと借りることができなかったりする。

近隣市では、屋外バスケットボールコートが整備されているところがあり、子どもを連れて行ったことがあるが、外国人のほか、日本人の子どもも遊んでいた。

スポーツはストレス発散にもなり大変良いことであるが、外国人が日本人のコミュニティに入ることは中々難しい場合もあるため、屋外バスケットボールコートの整備について検討してほしい。

(市長)

そのようなご意見は他にもいただいておりますので、気軽に負担なくスポーツができる環境整備について検討させていただきたい。

写真映えする場所をSNSで発信



(意見)

写真映えする場所をSNSで配信することによって外国人観光客も増えると思う。また、写真を撮る際には、着物を着て江戸・明治・大正・昭和それぞれの時代に合った雰囲気の建物と一緒に撮ると映える思う。

(市長)

着物も大正ロマン風や友禅、刺繍が施されているものなど様々あるため、それぞれが映える場所も変わってくると思う。また、最近では「キリジャン」など新たなブランドも誕生しているため、着るものによって場所を変えるというアイデアは素晴らしいことだと思う。

桐生の歴史・文化をPR



(意見)

県内の学校で働いている外国人の中では桐生八木節まつりについては知っている人も多いが、桐生の織物の歴史や織物体験ができることを知っている人が少ないため、それらをPRしていきたい。

(市長)

群馬には群馬県の歴史・自然・人物・産業・観光名所などを詠む「上毛かるた」というものがあり、子どもの頃から親しみ、県大会が行われたり、大人の大会も行われている。このかるたの内容を見るだけで群馬の文化や観光地などを知ることができるため、そのような案内も広められればと思う。

(市長)

色々なご意見をいただいた中で「在住外国人への情報発信」や「着物」・「織物」・「祭り」がキーワードとして出され、アイデアを多くいただき、新たな気付きも多かった。

今後も国籍問わず全ての方がこの桐生で安心して生活できるよう皆さんと一緒に取り組んでいきたいと思うので、協力をお願いしたい。

